

つくば霞ヶ浦りんりんロード

茨城県つくば市・土浦市ほか

01 リンクとプレイス

24 集える場の創出

旧筑波鉄道の駅舎を利用した休憩所や、道の駅などの休憩所として使える施設にはサイクルラックが設置され、サイクリストが休憩しながら交流できる(図1, 図8)

04 行動をサポートする案内サイン

ルートを示す路面のペイントや看板が設置されている。また、一般道と自転車専用道の交差部分では注意喚起の標識等が設置されている(図1, 図5, 図6, 図9)

11 生物多様性のある地域づくり

霞ヶ浦の周回コースや筑波山周辺は水郷筑波国定公園の区域にあり、生物多様性の保全が目指されている(図1, 図2)

12 多様な年代が集える場づくり

24 集える場の創出

りんりんロード近くの小田小交流プラザは廃校を活用した多世代交流拠点で、観光客やサイクリストの休憩所としても使われており、地域のボランティアが管理運営を行っている

14 公園・オープンスペースへのアクセス

霞ヶ浦総合公園や天王崎公園、道の駅たまつくりといった複数の公園や観光施設を結んでいる(図2, 図3)

18 交通静穏化

交通量の少ない湖岸の道路や自転車歩行者専用道路区間が多く、安全な自転車走行が楽しめる



28 親しみ・愛着のある場

旧筑波鉄道コースは土浦市と桜川市を結んでいた旧筑波鉄道の路線を自転車歩行者専用道路として整備したものである。また、桜川市真壁の重要伝統的建造物群保存地区や、小田城跡歴史ひろば、平沢官衛遺跡歴史ひろばといった古くから親しみのある場所を結んでいる(図4, 図7, 図8)

29 エリアマネジメント

行政機関に一般企業や関係団体等を加えた「つくば霞ヶ浦りんりんロード利活用推進協議会」によってルート周辺を含めた利活用の推進が行われている

つくば霞ヶ浦りんりんロードは、旧筑波鉄道の廃線跡と霞ヶ浦を周回する湖岸道路を合わせた全長約180kmのサイクリングコースで、琵琶湖を一周する「ピワイチ」、瀬戸内海を横断する「しまなみ海道サイクリングロード」とともに、2019年11月に第1次ナショナルサイクルルートに指定された。

約180kmの完全走破コース以外にも、初心者向けの旧筑波鉄道コース(約40km)や霞ヶ浦1周ショートコース(約90km)など、7つのコースが設定されている。「ゲートウェイ」となるJR土浦駅にはロッカーや更衣室、シャワーに加えて、自転車の販売、メンテナンスなどのサービスが提供される拠点施設「りんりんス

クエア土浦」が設置されている。また、ロードバイクやE-バイク、キッズバイクなど様々なレンタサイクルが用意されており、手ぶらでも気軽にサイクリングを楽しむことができる。また、JR土浦駅には自転車を室内に持ち込めるホテルも併設されている。

自転車道としての整備の歴史は古く、1987年に廃線となった筑波鉄道の跡地を茨城県が買い取って自転車道として整備を始めたのは1992年である。筑波山方面のルートは、旧筑波鉄道駅をはじめ、桜川市真壁の重要伝統的建造物群保存地区や、小田城跡歴史ひろばと資料館、平沢官衛遺跡歴史ひろばなど、古くから親しみのある場所・歴史ある場所を結ぶルートとなっている。



図1 左手側に見えるのが霞ヶ浦。路面にはサイクリングコース本線を示す矢羽根がペイントされている(撮影:筑波大学大澤義明研究室)



図2 手前に見えるのが霞ヶ浦総合公園内のオレンジ型風車。春には約3万本のチューリップが植えられる(撮影:筑波大学大澤義明研究室)



図3 霞ヶ浦大橋の東側に隣接する道の駅たまつり。サイクルラックを備えた休憩所で、サイクリストの交流の場となっている(撮影:筑波大学大澤義明研究室)



図4 桜川市の真壁休憩所近くにある重要伝統的建造物群保存地区。「真壁のひなまつり」に多くの観光客が訪れる。近くにはコミュニティベースでもある真壁伝承館がある



図5 コースの進行方向や自動車への注意を促す路面のペイントや、看板が設置されている



図6 自転車歩行者専用道路と一般道路との交差箇所は事故の危険性が高いため、より注意を引く看板が設置されている



図7 旧筑波鉄道の線路跡を自転車歩行者専用道路として整備した部分。街路樹の緑陰により、快適に走行することができる(撮影:筑波大学大澤義明研究室)



図8 旧筑波鉄道の筑波駅跡を整備して、休憩所とトイレが設置されている



図9 休憩所を示す看板

霞ヶ浦・北浦方面のルートは、霞ヶ浦湖岸の道路を利用して潮来市と土浦市を結ぶ自転車道として2000年に整備が開始された。風車やチューリップなどで知られる霞ヶ浦総合公園や夕日スポットとして知られる天王崎公園といった公園や、予科練平和記念館、道の駅たまつり、かすみがうら市交流センターなどの施設を結ぶルートとなっている。

茨城県が整備主体であるが、誰もが多様にサイクリングを楽しむことができる日本一のサイクリングエリアの形成を目指して、行政機関だけでなく、一般企業や関係団体等を加えた「つくば霞ヶ浦りんろード利活用推進協議会」が2018年に設立された。2021年3月時点の加盟団体は126団体であり、官民一体となって利活用推進のための取り組みが行われている。

参考文献

・茨城県、「つくば霞ヶ浦りんろード」, <https://www.ringringroad.com/>, (参照2021-12-04)